

第5次古賀市基本構想（案）に対する市長質疑（2021年11月18日）

質疑者：奴間健司

ぬま健司の総括質疑	田辺市長の答弁	コメント
<p>①全体として、市民とりわけ子どもや若者に読んでもらえる基本構想とは言い難い。</p> <p>読んでもらい、未来に希望を感じ、まちづくりを自分事としてとらえてもらえるような基本構想に練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>ご指摘は謙虚に受け止めるが、行政全般を網羅しつつ、過不足なく適切な文章で市のめざす方向性を示していると考えており、公募市民や有識者の皆様にご参加いただいた基本構想審議会においても慎重にご審議いただき、答申をいただいたうえで提案させていただいた。</p> <p>基本構想を可決いただいた暁には、未来を担う子ども達や若者にもその趣旨をしっかりとらえてもらえるように工夫しながら発信したいと考えている。</p> <p>「練り直す」ということに関しては、議会へ議案として提出し、ご審議いただいている最中であるので、私どもの責務としては、皆様にご理解いただけるよう説明を尽くしていくことだと考えている。</p>	<p>①市長は原案について「市民が読んでもらえるものであり、読んでいただきたい」と答弁したが、現状とかなり乖離していると受け止めた。</p> <p>②「練り直す」ということは自主的に議案を取り下げ、再度精査してから再提出することを意味する。市長は受け入れなかった。</p>
<p>②都市イメージ「ひと育つ こが育つ」は漠然としており、市民が望む都市像とは言い難い。</p> <p>地域コミュニティ、健康長寿、環境保全などのキーワードを盛り込み練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>「ひと育つ こが育つ」は、古賀市らしさを織り交ぜながら、市のめざす方向性を端的に表したものであり、これを補足する文章とともに都市イメージとして示している。</p>	<p>①今後10年間の重点課題を絞り込む結論に至らないまま基本構想を提案したため、都市イメージが漠然としたものになったと受け止められる。</p>
<p>③住みよさと定住に絞った指標ならびに「上昇」という設定はまちづくりの指標とは言い難い。</p> <p>「この二つの指標がおしなべて上昇すれば、10年間の取組みとして良い方向に向かっていると判断する」という認識を改め、各政策・施策の市民評価を基礎とする測定方法に練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>まちづくりの指標として、「住みよさ指標」「定住指標」の二つの主観指標を掲げているが、政策の総合的な成果はここに表れてくると考えており、基本構想の指標として適切であると考えている。この指標に関しましては、10年後に何パーセントになればまちづくりの目標を達成したと言えるのかを示すことは困難であることから、あえて数値を示さず「上昇」と表現した。</p>	<p>①他の議員からも「上昇」は納得できないという指摘があった。</p> <p>②毎年度、市民評価を行ってこなかったために、将来推計を出せないという実態が浮き彫りになっている。</p>
<p>④想定人口6万人という表現は、どのような人口フレームをめざしているのか伝わらない。</p> <p>ア) 第4次の目標人口6万5千人の総括をきちんと示していただきたい。</p> <p>イ) めざす人口規模、年齢別の推計と少子化対策並びに定住化対策による人口増の推計を明らかにするよう練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>第4次の目標人口6万5千人は達成できないことが現実だが、計画策定当時における社会情勢やインフラの余力などを踏まえて、めざす目標として設定したものであり、妥当性があったものとする。第5次においては、将来的に人口が減少することを視野に入れ、これに対応できるまちづくりを進めながら、できるだけ減少を緩やかにするという趣旨で、目標人口ではなく想定人口という表現にした。人口推計に影響を与える要因は複合的であるため、個別の対策による人口の増減を推計することは困難であると考えている。</p>	<p>①第4次の目標人口6万5千人の明確な総括は示さず、その目標設定は「妥当」と評価した。</p>
<p>⑤「SDGsは市の施策が直接関連づくものではなく、それに縛られるわけでもない」という認識が古賀市の認識であると記録されることは好ましいとは言えない。</p> <p>2030年は古賀市にとっても、世界にとっても重要な年である。SDGsの認識を改め、国際目標である共通のゴールに古賀市としてどう貢献するのか、政策・施策との関連付けを盛り込んだ内容に練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>SDGsに関しましては、策定の過程でバックキャストの視点や、経済・社会・環境の三側面の統合的取組による相乗効果の創出などに留意してきた。SDGsから得られる気づきは大事であり、施策を実行していくにあたっても念頭に置いていく。</p> <p>他方、これまでも説明してきたとおり、SDGsは国連が決議した国際目標であり、法的拘束力がなく、実現方法も財源も特定されていないものである。これを直接的に市の施策に関連付けることは行っていないが、古賀市は古賀市としてまちづくりの課題をきちんととらえ、これにしっかりと取り組んでいくことこそが大事であると考えている。</p>	<p>①市の施策とSDGsとの関連付けを行わない理由は、市の自主性、主体性のなさを示すものではないか。</p>
<p>⑥新型コロナ感染症の影響、経験、教訓に全く触れていないことは不思議であり疑問である。</p> <p>緊急事態への対応、ウイズコロナ、アフターコロナの新しい社会の在り方を基本構想に盛り込んだ内容に練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>令和4年度からの10年間という構想期間を考えた場合に、新型コロナウイルスという特定の感染症に特化せず、感染症全般についての記述とした。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて見えてきた課題は、もともとあった課題が顕在化し、課題に対する対応が新しい価値観のもとで急速に進展したものであり、こうした新しい価値観を踏まえて、多様な働き方への対応やICTの活用などを施策の方向性に盛り込んでいる。</p>	<p>①「新型コロナ」の経験を一切記載しないということはかえって不自然である。</p>

ぬま健司の総括質疑	田辺市長の答弁	コメント
<p>⑦各所管課が作成した文書の寄せ集めであり、全部署での議論や横断的対応が欠如している。</p> <p>国における「こども庁」設置を視野に、子どもに関することを一体的に取り組む体制構築を盛り込んだ内容に練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>「文書の寄せ集め」「全部署での議論や横断的対応が欠如」といったご指摘は当たらないと考えている。策定本部を中心に、鋭意、全庁的に対応してきた。</p> <p>こども庁のご指摘があるが、本市の子ども政策にかかる体制は、国が示している枠組みに近い形となっており、子どもにかかる課題に総合的に取り組めるようになっている。</p>	<p>①「全庁的に対応した」と答弁したが、こども、健康づくり、地域づくりなど今後10年間の重要課題に対応する体制の在り方は議論されていない。</p>
<p>⑧基本構想案審議中に公共施設総合管理計画第1期アクションプランの内容が明らかになった。</p> <p>総合計画が上位計画であるなら、その内容に応じて公共施設総合管理計画を練り直す必要が生じると思うがいかがか。市民体育館や千鳥苑等の「移転・廃止」は固定的なものなのか。</p>	<p>公共施設等総合管理計画につきましては、既に基本構想案の主旨に沿ったものとなっております。また、各施設の今後の在り方については、将来世代への負担を過大にしないためにも、計画に沿って進めていく予定としております。</p>	<p>①総合計画が上位計画であることを認識した答弁となっていない。</p>
<p>⑨基本構想審議中に校区コミュニティに関する指針を改訂せんとなることが明らかになった。</p> <p>ア) 基本構想案は2005年策定の指針改訂を前提とした内容なのか説明を求める。また、コミュニティにかかわる関係各課と協議しながら基本構想案を作成したのか。</p> <p>イ) バックキャスト手法で10年後を考え、校区コミュニティ構築を明確に盛り込むよう練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>ア) 平成17年度に策定した「校区コミュニティ組織づくりの基本方針」に代わるコミュニティ活動の新たな指針として「古賀市コミュニティ活動の指針」の策定を進めている。新たな指針策定に当たっては令和3年2月から各校区コミュニティのご意見を聞きながら進めており、指針を改訂することを前提に基本構想案を策定している。また新指針策定にあたり、関係各課にニーズ調査を行い、協議を進めている。その中で出た意見を踏まえて基本構想案をまとめている。</p> <p>イ) 現在策定を進めている新たな指針では、今後も持続的・安定的なコミュニティ活動を推進していくため、コミュニティ活動の類型や組織の在りように関わらず、活動内容に応じて幅広く支援する方法を検討することとしており、新たな指針は基本構想案に沿ったものと考えている。</p>	<p>①基本構想案は、校区コミュニティの基本方針改訂を前提としているとの答弁は後付けではないか。</p> <p>②今後の地域の在り方に逆行する判断を固定させようとしている。</p>
<p>⑩具体的事業と成果指標が盛り込まれるアクションプランは示されないままである。</p> <p>アクションプランは現時点で何割まで作成が進んでいるのか。基本構想議決前にアクションプランを示すよう求めるがいかがか。</p>	<p>アクションプランは予算編成と同時並行で策定を進め、当初予算案に付随する資料として示す。毎年度のアクションプランのローリングにつきましても同様の形と考えている。現在の進捗を割合で示すことは困難だが、第5次基本構想案の政策体系に沿って鋭意作業を進めている。基本構想の議決前にアクションプランを示すことは考えていない。</p>	<p>①最後までアクションプランの提示を拒否した。</p> <p>総合計画策定に関する条例に改正し、基本構想とアクションプランを分離するやり方を改めるべきだ。</p>
<p>⑪分科会での質疑を通じた私の意見は別紙で11月17日に提出している。各政策・施策ごとに対案も示しながら指摘事項を整理したものである。</p> <p>その内容読んでいただいたか。どう受け止めるか。改めて基本構想案を練り直すことを希望するがいかがか。</p>	<p>昨日(11月17日)提示いただいた資料は、読ませていただいた。委員のご意見として受け止めさせていただく。</p> <p>議会へ議案として提出し、ご審議いただいている最中であるので、私どもの責務としては、皆様にご理解いただけるよう説明を尽くすことであると考えている。</p>	<p>①国際交流、平和、コミュニティソーシャルワーカー、健康寿命延伸などこの時代に当然盛り込まれるべきキーワードがないことに、不自然さを感じる。</p>